

妊娠適齢期

10代で学ぶ

卵子の老化が不妊につながる女性の体のメカニズム。10代のうちから知っておいてもらいたい。将来、パパやママになるために必要な知識として。妊娠・出産の適齢期について中高生に教える特別授業に、岡山県が取り組んでいる。晩産化が進む中、不妊に悩む人の急増が背景にある。

中高生向けに特別授業 岡山県

この日の授業は、浅口市の鴨方高であった。2年生15人。たのは、不妊治療専門の岡山二人クリニック(岡山市北区)の臨床心理士 門田貴子さん(51)。

「スクリーンに映し出したのは、卵子の数の推移を示すグラフです。」

生殖医療
命が始まるとき

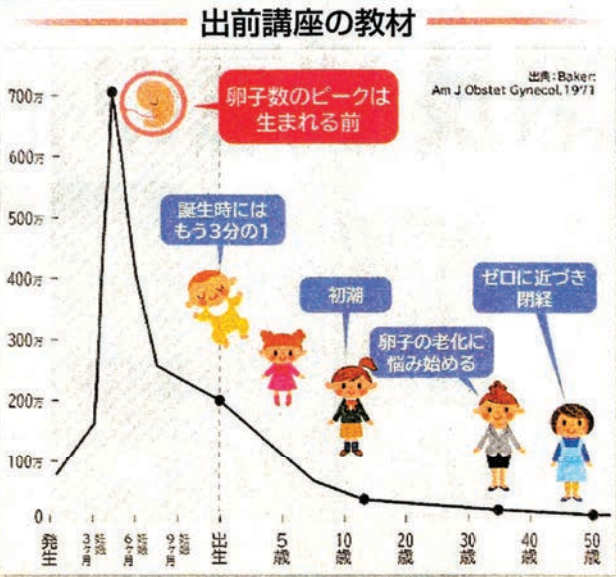
「納得いくライフプランを」

加齢で卵子減少／35歳過ぎると難しく／無理なダイエット悪影響

「スクリーンに映し出したのは、卵子の数の推移を示すグラフです。」

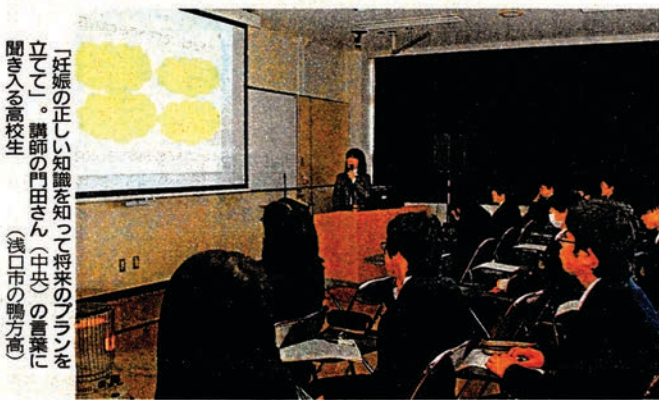
授業後、樋口結衣さん(17)は「30代で妊娠しにくくなるなんて」と驚きを隠さないう。小野浩平さん(17)は「女性は50代でも妊娠できると思っていた」と話していた。

「本年度からは、その教材を踏まえて授業に当たる指導員を養成しながら、現場への派遣を始めた。医師、助産師、臨床心理士、養護教諭たちが務める。今後、人材を増やしていくという。」



↑ 卵子の数と女性の年齢の関係を示すグラフ

↑ 生徒に配られる漫画やパンフレット



「妊娠の正しい知識を知って将来のプランを立てて」。講師の門田さん(中央)の言葉に聞き入る高校生(浅口市の鴨方高)

若者への妊娠・出産適齢期の啓発については、中国地方の他の自治体も必要性を認識している。広島県では今春、DVD教材を制作する予定という。鳥根県もこの1月から高校生・大学生を対象に初のセミナーを開催。初回は少子化ジャーナリスト 白河桃さんが鳥根最大の授業の1環で女性の妊娠や出産を踏まえたライフプランニングについて講義した。

岡山県健康推進課の西尾恵総 括副参事は「従来の性教育は、避妊の方法や感染症予防が中心だった。型通りの学習内容は、時代の変化に対応していけない。必要な知識をいかに分かりやすく、体系的に教えるか。医師や教育機関、自治体がさらに連携する必要がある」と話している。